



北海道大学  
HOKKAIDO UNIVERSITY

資料 1

# 「若者・女性が定着する北海道へ」

北海道大学 人材育成本部  
ダイバーシティ研究環境推進室  
特任教授 長堀 紀子

❖ 博士（理学） 化学・生命科学

❖ 研究者 → 行政 → 人材育成/ダイバーシティ推進

- 大学発ベンチャー（創薬基盤技術）兼業

❖ 男女共同参画、女性活躍促進分野については、

- 学術的な専門家ではない
- 大学での業務従事を通じた実践的な経験値/知をもつ

女性活躍/ダイバーシティ推進に関する、大学の問題意識、取組例、学生の意識などについて紹介します

# 北海道大学の現状

## 知と創造の歴史を積み重ねた北海道大学の歩み 創基150年に向けてさらなる発展を

北海道大学は、1876年に札幌農学校として開校し、以後、東北帝国大学農科大学、北海道帝国大学を経て1947年から北海道大学となり、現在に至っています。ウィリアム・S・クラーク博士の意思を受け継ぐフロンティア精神のもと、日本の基幹大学として世界をリードし、新たな時代を開拓し続けています。

### 1876

#### 札幌農学校として開校

マサチューセッツ農科大学長ウィリアム・S・クラークが札幌農学校初代教頭として着任。  
1876年8月14日、札幌農学校開校式挙行(本学開学記念日)。



開校当日の札幌農学校

#### 北大の変遷

明治

大正

昭和

平成

令和

#### 施設や研究所・出来事

### 1918

#### 北海道帝国大学に

北海道帝国大学が設置され、東北帝国大学農科大学が北海道帝国大学農科大学に、翌年、農科大学を改称して農学部を設置。以後、医学部、工学部、理学部、法文学部(現・文学部、法学部、経済学部)を順次設置。



1930年、4つ目の学部として理学部を設置。現在は総合博物館

### 1907

#### 東北帝国大学農科大学に

東北帝国大学が設置され、札幌農学校が東北帝国大学農科大学に。

1909年、鎌吉おしょう丸(現・おしょう丸V)新設。

### 1936

#### 中谷宇吉郎博士が世界で初めて人工雪結晶を製作



中谷博士が人工雪結晶を製作。現在博物館に展示され、資料とともに展示されている

### 1941

#### 低温科学研究所設置

寒冷圏および低温条件下における科学現象の基礎と応用に関する研究を行うことを目的に設置。



設立当時の低温科学研究所

### 1953

#### 新制大学院設置

文、教育、法、経済、理、工、農、獣医、水産の各研究科を設置。

### 1955

#### 大学院に医学研究科設置

### 1967

1952年に獣医学部、1965年に薬学部、1967年に歯学部を設置し、12学部に。

### 1943

#### 触媒研究所設置

世界で初めて「触媒」の命名を冠した研究所として1943年に誕生。1989年に触媒化学研究センターに改組。2010年に文部科学省から共同利用共同研究拠点として認定を受け、国内の触媒研究に促進する研究者の利用に供すべく拠点活動を行う。2015年に触媒科学研究所として改組。

### 1978

#### スラブ研究センター設置

ロシア(ソ連)をはじめとするスラブ地域との関係が深かった北海道の地に、日本のスラブ研究の拠点として誕生。2014年にスラブ・ユーラシア研究センターに改称。

### 2003

#### 北海道大学病院設置

医学部附属病院と歯学部附属病院を統合し、地域や社会からの高度な要請に対応できる医療の提供と人材育成を推進。



北海道大学病院

### 2004

#### 国立大学法人北海道大学に

### 2021

#### 創基145年

### 2018

#### 化学反応創成研究拠点(ICReDD)設置

文部科学省の事業である世界トップレベル研究拠点プログラム(WPI)に採択され設置。

### 2010

#### 鈴木重ユニバーシティプロフェッサー・名誉教授ノーベル化学賞受賞

鈴木・宮浦カップリング合成法の開発によりノーベル化学賞を受賞。医薬品・液晶・有機LEDなどの開発、量産化に大きく貢献。



### 2007

#### アイヌ・先住民研究センター設置

国内唯一の先住民研究の専門研究機関として、アイヌ民族をはじめ先住民と協同し、先端的・実践的な教育研究を推進するセンター。



センター開設記念式で実施したカムイミ(神への祈り)

### 2005

#### 人獣共通感染症リサーチセンター設置

2011年に人獣共通感染症国際共同研究所に改組。新型コロナウイルス感染症の国際的な研究拠点としても活動。

### 2026

#### 創基150年

# 2026年 創基150年

本学の学名・沿革については、以下の本学ウェブサイトでご覧いただけます。

[https://www.hokuid.ac.jp/information/pdf/20210802\\_gaiyou.pdf#page=4](https://www.hokuid.ac.jp/information/pdf/20210802_gaiyou.pdf#page=4)



# 女性活躍に係る取組の推移

## 男女共同参画/女性研究者支援

- 2004年 男女共同参画委員会
- 女性教員採用促進策
- 2006年 女性研究者支援室開設

## 国際化/若手研究者登用促進

- 若手教員採用育成促進の取組
- 大学のグローバル化の取組
- 大学の研究力強化の取組

年齢、職位、国籍等、研究者の多様化が促進

多様性を包摂し、すべての研究者がその能力を存分に発揮できる環境の実現へ

2020年4月 女性研究者支援室を「ダイバーシティ研究環境推進室」へと名称変更

2021年12月 北海道大学ダイバーシティ&インクルージョン推進宣言



第20代 北海道大学総長  
眞金 清博

## ひとりひとりが誇りを持ち、 自らの可能性に挑戦できる 環境を目指して

21世紀を生きる私たちが世界と地域の持続可能な発展に寄与するために、北海道大学は多様な人々との共存と共生を基盤とした「北海道大学ダイバーシティ&インクルージョン推進宣言」を公表し、無意識の差別や偏見を乗り越えたバイアスフリーキャンパスの実現に向けて邁進します。

### 北海道大学 ダイバーシティ&インクルージョン推進宣言

2015年、国連サミットで「誰一人取り残されない」ことをスローガンに「持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals: SDGs）」が採択され、世界の課題解決に向けて国際社会が結束して乗り越えることが必須であることが広く認識されました。その背景には、社会課題の多くが、多様な国や地域、人々の間で相互に複雑に関連し交差していることにあります。

北海道大学は、SDGs 採択に先立ち、2014年に創設150年に向けた近未来戦略150を策定し、「世界の課題解決に貢献する北海道大学へ」を新たな使命としました。そこには、総合大学としての強みを有機的に融合した「個性を持った総合力」を発揮し、「知の創成・伝承・実証の拠点」としての役割を担う大学の姿があります。すなわち、多様性を尊重しながら一体感を醸成する過程を通じて社会的責任を果たし、多様性社会を実現するために新しい価値を共に創り上げていく場としての大学です。これを表現するためには、多様な価値観や経験、意見が集い、自由に公正かつ公平な議論に基づいた「多様性にひらかれた教育・研究環境」が不可欠です。

そのためには、すべての大学構成員ひとりひとりが、他者への理解を深め、自らの無意識の差別や偏見に気づき、多様性を受容し包摂する豊かな人間性と高い知性を育み、各々の能力を最大限に発揮することが大切です。そのうえで、その時々々の課題を引き受け、学問の自由と自らの問題意識に基づき、多様な人々と共に新たな知を

創造すること、およびそのような人材を育成することは、大学の基盤をなす根本的使命でもあります。

さらに、知の創造から知の実践に向けて、社会との連携を深め、様々なステークホルダーと共に協働していくことも、本学が目指す「実学の重視」を体現した姿のひとつであり、かつ大学に期待される社会的役割でもあります。その中で、誰一人取り残さない持続可能な世界の実現に貢献するためには、人物を擁護し、多様性を尊重する人々、組織、団体と協働していくことが必要です。

以上より北海道大学は、誰一人取り残さず、人種、国籍、肌の色、言語、民族、出自、宗教、信条、性別、性的指向、性自認、ライフイベント、年齢、障害、外見・容姿、ライフスタイル、その他いっさいの個人の事由に関わらず、すべての構成員の尊厳が守られ、ひとりひとりが誇りを持ち、互いを尊重する大学環境を目指します。また、すべての構成員がその能力を最大限に発揮して自らの可能性に挑戦できることを目指して、さらなる意識改革および環境整備を進めます。これらの新たな理念と使命を掲げ、多様性を尊重し共生を実践することを決意し、「北海道大学ダイバーシティ&インクルージョン推進」を宣言します。

令和3年12月1日  
北海道大学総長



Diversity and Inclusion Special website  
<https://diversity.synfoster.hokudai.ac.jp>



## 特設サイト設置

教職員・学生のメッセージ動画など

### Diversity & Inclusion

北海道大学 ダイバーシティ&インクルージョン推進宣言

[トップ](#) [ニュース](#) [D&I推進宣言](#)

## 北海道大学のD&I

### Diversity & Inclusion



<https://diversity.synfoster.hokudai.ac.jp/>

# ダイバーシティ推進の最重要課題 = 女性の活躍



北海道大学  
HOKKAIDO UNIVERSITY

## ❖ 教職員・学生における女性の人数と割合

2021.5.1現在

**教職員** **4,215** (役員8名を含む)

◆ 教員 \* **2,283** (女性**14.4%**) \* 特任教員を含む

◆ 職員 \* **1,924** (女性**49.1%**) \* 職員のデータのみ2020.5.1

**学生** **18,113** (女性**29.8%**) 留学生 **2,104** (女性**47.6%**)

◆ 学部 **11,561** (女性**29.6%**) 留学生 **179** (女性**41.3%**)

◆ 大学院 **6,552** (女性**29.9%**) 留学生 **1,925** (女性**48.1%**)

# ダイバーシティ推進の最重要課題 = 女性の活躍

## ❖ 職位別女性教員の割合



参考)

### 第6期科学技術・イノベーション基本計画

大学教員のうち教授等（学長、副学長、教授）に占める女性割合：

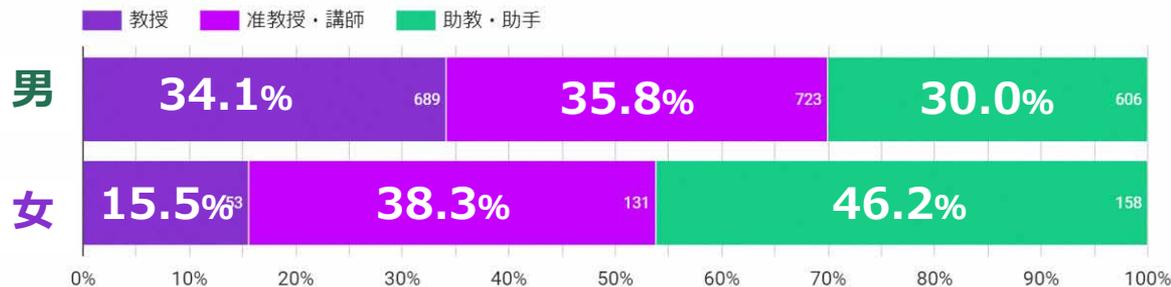
早期に **20%**、2025 年度までに **23%**

2020年度

国立大学平均：2020年5月1日現在

北海道大学：2021年1月1日現在

## ❖ 男女別の教員職階構成（教授：准教授/講師：助教）



男性 1:1:1

女性 1:2:3

# 世界の状況との比較



男女共同参画白書令和3年版

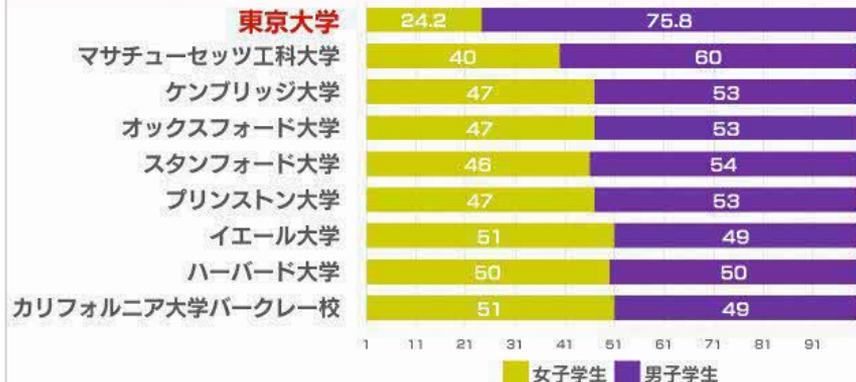
1-5-7図 研究者に占める女性の割合（国際比較）



- (備考) 1. 総務省「科学技術研究調査」(令和2年)、OECD“Main Science and Technology Indicators”、米国立科学財団(National Science Foundation: NSF)“Science and Engineering Indicators”より作成。  
 2. 日本の数値は、令和2(2020)年3月31日現在の値。アイスランド、ギリシャ、アイルランド、デンマーク、スイス、ベルギー、米国、スウェーデン、オーストリア、フランス、ルクセンブルク、ドイツ及びオランダは平成29(2017)年値、その他の国は、平成30(2018)年値。推定値及び暫定値を含む。  
 3. 米国の数値は、雇用されている科学者(Scientists)における女性の割合(人文科学の一部及び社会科学を含む)。技術者(Engineers)を含んだ場合、全体に占める女性科学者・技術者の割合は29.0%。

世界のトップ研究大学との比較（東京大学を例に）

## 世界の大学別の男女比



Times Higher Education 『WORLD UNIVERSITY RANKINGS 2022』を元に作成  
<https://www.nhk.or.jp/shutoken/wr/20211021gg.html>

北海道大学 女性割合  
 学生 30% ⇒ 教員 14.4%

育てられていない or 環境が良くない

## 1 人材政策

### ❖ 総合的な人事計画

- 年齢構成の適正化（教授：准教授/講師：助教の割合 1：1：1）
- 人材の多様性の確保（若手、女性、外国人の雇用促進）
- 流動性の向上（民間企業等との人事交流）

## 2 環境整備・意識改革・女性研究人材育成支援

### ❖ 専門部署の設置

- 人材育成本部 ダイバーシティ研究環境推進室

## 1 研究環境のさらなる改善と意識改革

- ✦ 連携機関による推進会議の設置
- ✦ ライフイベント等と研究の両立支援
- ✦ ダイバーシティ推進シンポジウムの開催
- ✦ 支援体制の構築
- ✦ ネットワークの拡充と地域への波及
- ✦ 組織の意識改革のための取組

## 2 キャリアアップと自立に向けた支援

経験を通じて発信力を体得する  
挑戦の機会の提供

- ✦ 共同研究促進のための研究交流発表会
- ✦ 女性研究者リーダー育成共同研究助成
- ✦ 女性研究者主催の研究会開催支援

あり方・スキルを学ぶ  
自己研鑽の場の提供

- ✦ 上位職を目指す女性研究者のためのシャドウイング研修
- ✦ 女性リーダー塾
- ✦ スキルアップセミナー

## 3 上位職・管理職のさらなる増加

組織のリーダーから学ぶ  
視座を引き上げる

- ✦ 各界のリーダーによるセミナー
- ✦ 総長・役員等によるマネジメント層と女性研究者との対話